松山城本丸跡６次調査　現地説明会

日　時：平成 25 年 2 月 2 日（土）10：30 ～ 12：00
場　所：松山市丸之内（松山城本丸跡）

１．はじめに

松山市では、平成 24 年９月中旬から 25 年２月末までの予定で、松山城跡の防災施設再整備の事前調査として、本丸跡を中心に現防災施設の位置確認及び城に関連する遺構の有無の確認を目的とした発掘調査を実施しています。調査区（トレンチは全部で 13 箇所設置しましたが、今回は、そのうち特に成果のあったトレンチ 1、8、11 及び 12 について説明します。

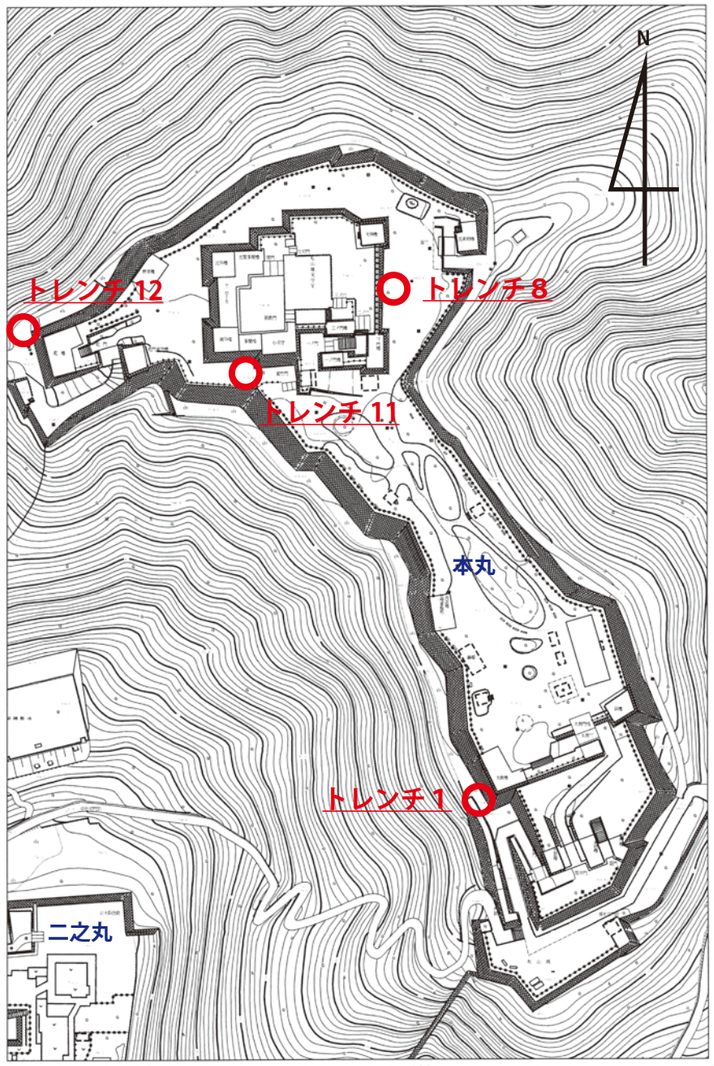

図１　調査区（トレンチ）の位置　　S=1/3000

２．調査の概要

１）トレンチ１

この調査箇所は、かつて「中ノ門」が存在したといわれている場所です。「中ノ門」とは、本丸の太鼓櫓の西側下にあったとされる門のことです。様々な絵図に描かれていることから、その存在はほぼ間違いありませんが、近代以降に解体（破壊）されたため、その位置、向き、門形式ともに不明となっていました。

調査の成果、４基の礎石と布石の抜跡を確認しました。礎石は長方形（約 50 ㎝ × 約 70 ～ 90 ㎝）と正方形（一辺約 50 ㎝）とがあり、石材は花崗岩です。

礎石の数や城内での位置関係から、門形式は戸無門と同じ高麗門形式で、大きさは幅約 320 ㎝、奥行約 210 ㎝（※柱芯間）と考えられます。さらに、鏡柱と側柱が建てられる長方形の礎石が北側にあることと布石の抜跡の位置から、北側が表（本丸外）で、南側が裏（本丸内）だということが判明しました。布石の存在は、蹴放し及び扉があったことを示すものです。礎石の掘方の埋土中には江戸期の瓦が多数出土したことから、この礎石は創建当初ではなく、江戸時代の途中に建てられた、あるいは改修されたものと考えられます。また、上層から乳金物の一部が出土しました。

これらのことから、中ノ門は少なくとも幕末には、一説にいう「囮の門」ではなかったということが分かりました。また、二之丸から大手門を経由して本丸に至るルートとは別に、「中ノ門」を経由して本丸に至るもう一つのルートがあることがあらためて分かりました。

一　同所西脇中門
棟行西東三間　梁行一間一尺五寸
柱高一間四尺五寸　内法一間三尺三寸
扉幅一間二尺八寸　高一間二尺八寸
棟ヨリ石口迄高二間半

資料１　中ノ門の寸法
〈景浦勉 1985「松山城郭資料」伊予史談 256 号より抜粋〉

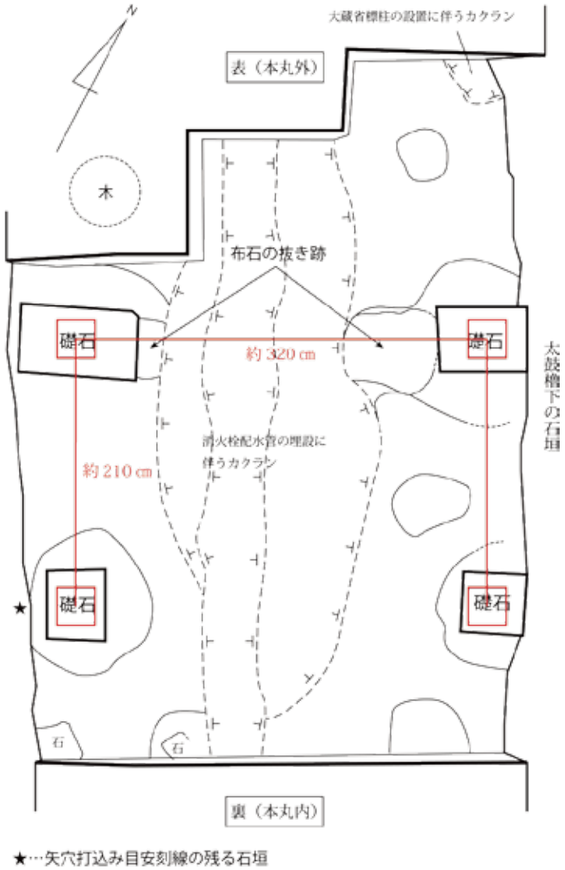

図２　トレンチ１（中ノ門）　平面図

写真１　トレンチ１（北から）

写真２　隠門の乳金物（北から）

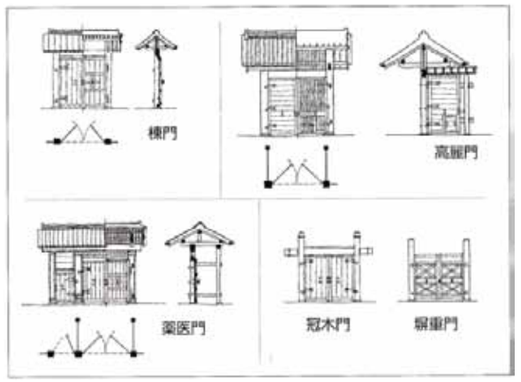

図３　門の形式
〈平井聖 2002『日本の城を復元する』より抜粋〉